

2021年度 卒業生・修了生キャリアアンケート調査結果

【I. 調査の概要】

1. 調査対象

2020年3月に星美学園短期大学幼児保育学科を卒業または、専攻科幼児保育専攻を修了し、本学で取得した資格を活かして就職した卒業生を対象として実施した。主な資格(幼稚園教諭二種免許状、特別支援学校教諭二種免許状、保育士資格等)
次の表「卒業生・修了生進路(就職・進学)状況」の、青色部分が幼児保育学科調査、緑色部分が専攻科幼児保育専攻の調査対象数となる。

2019年度卒業生・修了生進路(就職・進学)状況

学科	幼児保育学科卒業生							専攻科幼児保育専攻修了生										
在籍数	75							58										
卒業者数	75							57										
進路決定者数	(就職)11 (進学)63 (その他)1							(就職)56 (進学)1 (その他)1										
進路内訳	幼稚園	児童施設	特別支援学校(臨時)	一般企業	一般企業有期雇用	その他	進学	幼稚園	保育所	こども園	公務員(非常勤含む)	療育施設	児童養護	特別支援学校(臨時)	一般企業	一般企業有期雇用	その他	進学
							専攻科											大学
	3	1	1	4	2	1	63	9	25	4	7	3	2	3	2	1	1	1
進路決定率	100%							100%										
	※(その他)職業センター							※(その他)留年										

2. 調査機関及び方法

2020年12月20日～2021年1月31日の期間に実施した。アンケート調査依頼は、就職先と、就職先を通して卒業生・修了生に書面にて調査への協力の依頼をした。回答は、回答用紙に記入してもらい、同封の返信用封筒で返送してもらった。

3. 回収率

就職先からの回答は、57施設中、46施設から回答が得られ、回収率は79.3%であった。

修了生、卒業生からの回答は、58名中、30名から回答が得られ、回収率は51.7%であった。

4. 主旨と目的

本学の幼児保育学科、専攻科では、下記の「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」を掲げ、教育を行っている。その教育成果を自己評価するために、このたびアンケート調査を計画した。アンケート調査(別紙)の目的は、本学2019年度卒業生、修了生(2020年4月から勤務)が次のディプロマ・ポリシーを身につけているかを評価し、今後の本学の教育改善に結びつける。

星美学園短期大学の幼児保育学科ディプロマ・ポリシー

1. 保育の実践力: 保育をする上で必要な基本的知識・技術を身につけ、説明、実践することができる。(知識技術)
2. 共感する心 : 子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる(共感愛情)
3. 言葉で表現する力: 保育をする上で適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけている。(言葉遣い、文章を書く)
4. 人とかかわる力: 他者と協働しながら計画・実施・振り返り・改善する体験を通して、社会性を身につけている。(協働)

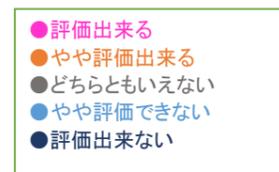
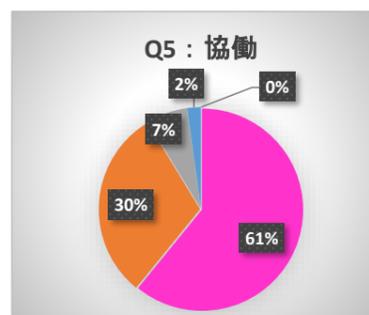
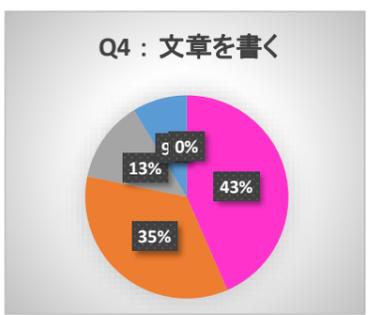
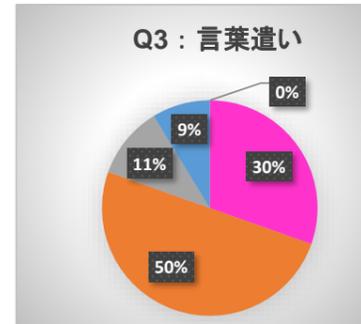
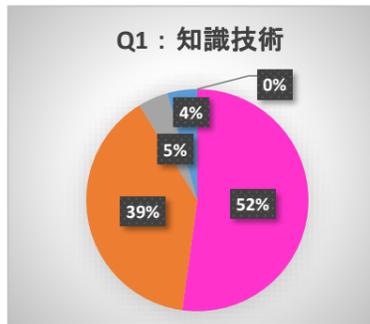
星美学園短期大学の専攻科ディプロマ・ポリシー

1. 保育の実践力: さまざまな保育技術のうち、自ら選んだ分野に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力することができる。(知識技術)
2. 共感する心 : さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけている。(共感愛情)
3. 言葉で表現する力: 保育や子どもにかかわる事象、諸問題を、文献や実践・現場調査から客観的な判断に基づいて説明することができる。(言葉遣い、文書を書く)
4. 人とかかわる力: 保育チームティーチングを行うために、チームの一員として協議や企画に積極的に参画することができる。(協働)

【Ⅱ.「卒業生・修了生就職先へのアンケート」回答結果】 n=46

(単位:件)

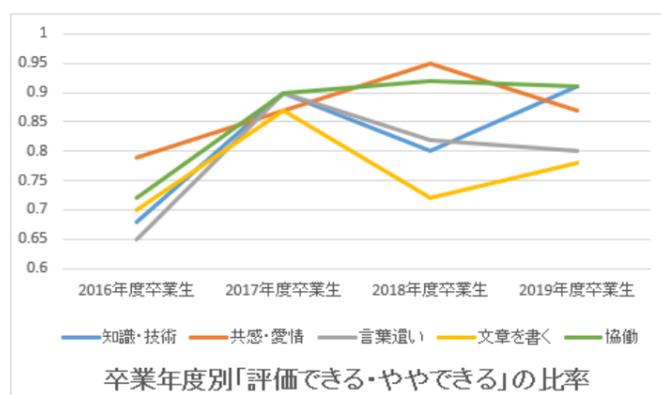
	評価出来る	やや評価出来る	どちらとも言えない	やや評価できない	評価出来ない
Q1:保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	24	18	2	2	0
Q2:さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	20	20	5	1	0
Q3:保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	14	23	5	4	0
Q4:保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか。	20	16	6	4	0
Q5:他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	28	14	3	1	0



2016年度～2019年度卒業生・修了生就職先へのアンケート回答結果「評価できる・評価できない」の割合

	評価	Q1知識・技術	Q2共感・愛情	Q3言葉遣い	Q4文章を書く	Q5協働
2016年度卒業生	できる	68%	79%	65%	70%	72%
	できない	0%	2%	2%	0%	0%
2017年度卒業生	できる・ややできる	90%	87%	90%	87%	90%
	できない・ややできない	4%	3%	4%	5%	4%
2018年度卒業生	できる・ややできる	80%	95%	82%	72%	92%
	できない・ややできない	2%	2%	0%	5%	0%
2019年度卒業生	できる・ややできる	91%	87%	80%	78%	91%
	できない・ややできない	4%	2%	9%	9%	2%

2017年度2018年度2019年度の数字は上段:評価できる・やや評価できる 下段:やや評価できない・評価できないをそれぞれ合計した値



<総評>

「Q1知識技術」について、就職先から2019年度は、91%の「評価できる・やや評価できる」という回答が得られた。経年変化は学年によってばらつきはあるものの、2016年度以降の「評価できる」の平均は82.3%であった。

「Q2共感・愛情」について、就職先から2019年度は、87%以上の「評価できる・やや評価できる」という回答が得られた。経年変化は学年によってばらつきはあるものの、2016年度以降「評価できる」の平均は87.0%であった。

「Q3言葉遣い」について、就職先から2019年度は、80%の「評価できる・やや評価できる」という回答が得られた。経年変化は学年でばらつきがあり、2016年度以降の平均は79.3%と80%を切っている。

「Q4文章を書く」について、就職先から2019年度は、78%の「評価できる・やや評価できる」という回答が得られた。経年変化は学年によってばらつきがあり、2016年度以降の平均は76.8%と5つの質問項目の中で最も評価が低い。

「Q5協働」について、就職先から2019年度は、91%の「評価できる・やや評価できる」という回答が得られた。経年変化は平均して高評価であり、2016年度以降の「評価できる」の平均は86.3%であるが、2017年度以降は90%以上の「評価できる」という回答が得られている。

全体を概観すると、2019年度については、全ての質問項目において「評価できる・やや評価できる」という回答が約80%を超えており、本学のディプロマ・ポリシーの達成度については、就職先からも評価されているといえる。一方で「Q3言葉遣い」「Q4文章を書く」については「評価できる」という回答が他の3つの質問項目より低く、「やや評価できない」が、それぞれ9%あり、他の質問項目と2倍以上の差が見られた(「評価できない」は0%)。引き続き、言葉遣い、文章力については重点的に教育する必要がある。